

KANSAI*OSAKA

文化力

No. 121

2015 / SUMMER・夏

関西から

文化力
POWER OF CULTURE



北前船寄港地フォーラム in 大阪

石川 好氏(作家)

銭谷眞美氏(東京国立博物館館長)

宗田好史氏(京都府立大学教授)ほか

日本万国博覧会記念基金助成事業

平成28年度申請受付開始と27年度助成事業のご紹介

ASKニュース

上方落語若手噺家グランプリで桂吉の丞さんが優勝

企業メセナ最前線

八千代電設工業株式会社 代表取締役社長 岩橋貞雄氏

スポットライト

文楽人形遣い・二代目 吉田玉男さんに聞く

21 cafe 「関西釣り文化論」 佐々木洋三

第16回 きた まえ ぶね 北前船寄港地 フォーラム in 大阪

現代版北前船 新・日本海ネットワーク2015



7月17日 金 太閤園 (大阪市都島区)

瀬戸内海・日本海各都市と連携

北海道の昆布と土佐の鰹が大阪で出会い、世界に誇る和食の「ダン」文化が生まれたように、大阪は全国各地の物や情報が交流し、新たな文化創造の場となってきた。かつて出船千艘・入船千艘といわれた大阪の経済的・文化的繁栄は、そうした海運の歴史に支えられ、北前船が航路とした瀬戸内海から日本海にいたる寄港地の発展を牽引してきた。「北前船寄港地フォーラム」は、北前船によってもたらされた富・文化・芸術を再発見し、観光振興による地域活性化の方策を探るもの。今回、関西・大阪21世紀協会は、民が支える公共的文化活動の推進役として、実行委員会事務局を担当した。当日は台風11号による悪天候にもかかわらず、歴代の開催市町などから総勢約600人が参加。民間主導の全国的フォーラムとして、文化の交流地である大阪の役割を果たすとともに、本格的な広域周遊観光時代の扉を開くフォーラムとなった。



「北前船寄港地フォーラム」とは

北前船寄港地フォーラムは、秋田公立美術工芸短期大学の元学長・石川好氏が提唱した「北前船コリドール構想」に賛同した人たちの支援により開催されている。コリドールとは、人と物が行き交う通路・大通り・回廊を意味する言葉で、日本海側が栄えたかつての北前船寄港地ルートを結び、各地域を経済的・文化的に発展させようという構想。

主催 北前船寄港地フォーラムin大阪 実行委員会
(委員長：佐藤茂雄大阪商工会議所会頭)
事務局：関西・大阪21世紀協会 他

後援・協賛

国土交通省(観光庁、近畿運輸局)、大阪府、大阪市、大阪観光局、関西経済連合会、大阪商工会議所、関西経済同友会、日本観光振興協会、観光振興懇話会、西日本旅客鉄道、東日本旅客鉄道、北海道旅客鉄道、全日本空輸、日本航空、近畿日本鉄道、阪急電鉄、京阪電気鉄道、南海電気鉄道、阪神電気鉄道、JTB西日本、日本旅行、KNT-CTホールディングス、ロイヤルホテル、ニューオータニ、帝国ホテル、藤田観光、鴻池運輸、郵船クルーズ、アーク・クエスト、そろばん普及会、野村証券、大関酒造、関西・大阪21世紀協会

北前船寄港地フォーラムについて

石川 好氏 北前船寄港地フォーラム議長、作家

北前船によって運ばれた上方文化が、北陸や北東北地方の経済・文化の発展に大きな影響を与えたのは歴史的事実。大阪に元気がなければ、日本海側の各地域も元気が出ないともいえる。



北前船寄港地フォーラムを提唱したのは、北日本の各地域を活性化するために、地域間の連携が必要だと考えたから。北前船がもたらした各地域の文化資源を探し出し、その航路上の都市が情報交換をする機会を大事にしたい。このフォーラムはそのインフラとなるだろう。これまで続けてきた成果では、例えば「秋田竿燈祭り」を酒田市で行い、酒田の「黒森歌舞伎」を秋田で行うことで互いに活性化を促す取り組みが生まれた。

このフォーラムは行政の指導を一切受けず、すべて民間の手作りで開催されてきた。都市の大小に関係なく、どの寄港地でも同程度の規模で開催してきたことを誇りに思っている。今後は、瀬戸内海や山陰地方、四国地方さらにはアジアにも広がっていくことができればいい。

北前船がもたらした文化の発展

銭谷 眞美氏 東京国立博物館館長、元文部科学省事務次官

「北前船」という名は、日本海沿岸が「北前」と呼ばれたことからそう呼ばれた。1672年に河村瑞賢が酒田（山形県）を起点として西回り航路を開拓したのがはじまりで、最盛期は江戸時代中頃から明治時代中頃。江戸時代は1年に1往復が原則で、2



～3月頃大坂を出て瀬戸内海を西へ進み、下関から日本海に入って各地を寄港しつつ、商品を売買しながら5～6月頃に北海道に着き、11月頃に再び大阪に戻ってきた。

北前船は単なる輸送船ではなく、船主が荷主となってそれを売り買いすることで利益を上げた。主な商品は、大阪に向かう「上り荷」はニシンや昆布などの海産物、北へ向かう「下り荷」は呉服、酒、綿、塩など。例えば北海道の昆布は加賀藩が仲介して薩摩藩にもたらされ、それを薩摩藩は琉球を経由して中国に売った。一方、薩摩藩は中国の薬品を琉球経由で富山にもたらし、富山の薬業が繁栄した。このように北前船は、大阪の繁栄はもとより、寄港地各地の経済や文化の発展に大きく寄与した。

フォーラム | 第1部 日本遺産と北前船寄港地文化

日本遺産の目指すもの

高橋 宏治氏 文化庁 記念物課長

日本遺産 (Japan Heritage) は、文化庁が2015年度から取り組んでいる事業。これまでの文化庁行政は、国宝や史跡などの“個”を指定し、人々が触れないよう規制していた。一方、日本遺産は地域の歴史的魅力や特色ある文化、伝承などを語る「ストーリー」を認定するとともに、ストーリーを語る上で不可欠な有形・無形の文化財群を地域が主体となって総合的に整備・活用し、国内外に戦略的に発信することで、地域の活性化を図るのが目的。2015年度は8億700万円の予算で進めており、日本遺産になると5年程度の財政支援をさせていただく。



今年度は全国40の都府県・238の市町村から83件の提案があり、群馬県(桐生市、甘楽町、中之条町、片品村)の「かかあ天下(群馬の絹物語)」など18件が認定された。今までとはちょっと違う観点で、いかに魅力を訴えるかがポイントとなるため、ストーリーづくりは文化庁と各地域が協働で進めていきたい。2020年までに100件程度を認定する予定。

観光資源の活用と広域周遊

長崎 敏志氏 観光庁 観光資源課長

2015年1～5月の訪日外国人旅行者は、前年比44.9%増の753.8万人で過去最高ペースで推移している。しかし、国内の旅行消費額(総額23.6兆円/2013年度実績)で見ると、ほとんどが日本人の国内日帰り(4.8兆円・20.2%)や国内宿泊旅行(15.8兆円・66.9%)で、訪日外国人旅行者は1.7兆円と、1割弱に過ぎない。観光庁は、インバウンド(訪日外国人)も日本人の国内旅行もどちらも大切だと考えている。



日本遺産にも期待しているが、世界遺産登録前後の観光客の推移を見ると、登録されて一時的に観光客が増えても、その後は横ばいもしくは落ち込んでいるところがある。世界遺産にしる、日本遺産にしる、登録されるだけではだめで、登録後に集客を維持することが大事だ。登録取得後の集客について観光庁としても一緒に考えていきたい。現在、観光庁は広域観光周遊ルートの形成・促進に取り組んでおり、何のために、何を観光したいのかを、地域の方々と一緒に考えている。

観光資源のストーリーづくり

平谷祐宏氏 尾道市長

尾道市は今年、日本遺産の認定を受けた。尾道には中世（鎌倉～室町時代）の寺院建築が凝縮しており、国宝4点、重要文化財55点、中心市街地に25か寺がある。2011年に「尾道市歴史文化基本構想」と「文化財保存活用計画」を策定し、2012年に「尾道市歴史的風致維持向上計画」が国に認定されたことも、日本遺産認定の条件となった。



文化財を大切にすることで地域の活性化にはつながらない。日本遺産認定にはテーマが必要で、尾道市の場合は「尾道水道が紡いだ中世からの箱庭的都市」。北前船寄港地であった良好な尾道水道、中世の寺院建築の集積、戦禍を免れた歴史的町並みといった地理的魅力を中心に、文化庁と協力してストーリーづくりを行った。そうして文化財を活用することで地方創成を進めている。

講演 北前船寄港地にみる街づくり

宗田好史氏 京都府立大学教授

今から40年前に「重要伝統的建造物群保存地区」制度ができた。すでに全国110地区あり、ここ数年で北前船の寄港地も加わってきた。そしてその後の40年間は、まちなみをいかに残すかという住民運動の闘いでもあった。近年は文化遺産に対する考え方も変化し、その活用に民間が知恵を絞っている。



例えば酒田市は、映画「おくりびと」のロケ地となったことで、そのまちなみを観光集客に活用している。宮津の名所といえば天橋立が定番だったが、今では四軒町で再生された町家「びんと館」が人気で、インバウンドの促進に一役買っている。新潟では花街の再生が課題になっている。また、京都では「町家ブーム」が起きて20年以上経ち、すでに「町家文化」と呼べる

三浦廣巳氏 秋田商工会議所会頭

私の出身地の秋田市土崎地区には、北前船に由来するストーリーがある。例えば土崎神明社の「土崎港曳山祭り」は、京都祇園祭の山鉾行事がルーツといわれる。この祭りは別名「カスベ（魚のエイ）祭り」と呼ばれ、この日は客人をエイ料理でもてなす習わしがある。しかし秋田県沖でエイはほとんど獲れず、北海道から北前船で運ばれてきたもの。このように祭りだけでも、北前船がさまざまな文化をもたらしていることがわかる。



近年は秋田市の竿灯祭りを酒田市（山形県）に派遣し、酒田の「獅子頭」が秋田の祭りに参加するなど、北前船寄港地フォーラムがきっかけで地域間の交流が促進されている。北前船の寄港地は全国に200近くあり、そうした地域の交流・連携が日本遺産認定に向けた大きな力になるだろう。

ほど定着。町家をお洒落なレストランや雑貨店に再生し、京料理や古刹などの世界遺産とセットで女性客のリピーターを確保している。尾道市でも、空家にアーティストを呼び込むことで活性化を図っている。

こうした時代の流れの中で、北前船寄港地で歴史や文化遺産を活かすまちづくりをいかに進めるべきか。そのひとつに、未曾有の人口減少に直面する現在にあっては、交流人口を増やすことで地域経済を維持する方法がある。仮に1人の観光客が1度そのまちを訪れることで12万円消費すれば、10人で120万円。市民1人が1年間に120万円消費するならば、1人の人口を失うのに対して10人の観光客を増やせば地域経済を維持できるという考え方である。問題は、そのための観光事業に従事する人の確保。いくら国が支援しても、実際に商売をする人がいなければ効果は上がらない。限られた人的資源を活用し、どれだけ有効な商業・サービス業投資が行えるかがポイントとなる。北前船の歴史や文化遺産が、交流人口を増やす文化商品やサービスをつくる創造的な取り組みに活かされればいい。

フォーラム | 第2部 大阪から巡る寄港地～現代版北前船が繋ぐ～

クルーズ船で巡る

仙波雄二氏 郵船クルーズ 特別顧問

約900隻の船を運行する日本郵船グループには、日本籍では最大のクルーズ客船「飛鳥II」がある。その船上生活は、昼は著名人の講演会やスポーツ、カルチャー教室、夜はディナーの後のショーやカジノ、バーなどが楽しめる。こうしたクルーズライブには、魅力ある寄港地も欠かせない。私たちが寄港地を選ぶポイントは、観光スポットがあること、名産品や祭り

などの催事があること、テーマ性のある文化と触れ合えること。さらに地元への歓迎を受けると大変ありがたい。例えばこれまでに行った5泊6日の小笠原クルーズや、4泊5日の鳥羽・熊野大花火クルーズは好評で、北陸新幹線とコラボした企画も話題を呼んだ。来年は33泊34日の日本一周グランドクルーズも予定している。



鉄道で巡る

堀坂明弘氏 西日本旅客鉄道 取締役兼常務執行役員

私どもは地域の皆様との連携を極めて重視し、新幹線を軸とした広域ルートの構築に取り組んでいる。その1つが、地域の魅力を活かした観光素材の整備。観光地はもとよりアクセスや現地ガイドなどを整備して、行ってみたいと思ってもらえるような地元の素材を磨き上げることである。2つめは、そうした素材を繋ぐ周遊ルートの整備。そのためにはストーリー性やテーマ性が重要だ。当社では、DISCOVER WEST キャンペーンとして、北前船寄港地である北陸、中国、関西の各地を繋ぐ広域周遊ルートの整備に取り組み、非常に多くの集客に成功した。また、今年3月に山陽新幹線の全線開業40周年を迎えたことを機に、関西から西に向けたブランディングプロモーションを行なっている。



空路で巡る

久保田雅晴氏 国土交通省 航空局 航空ネットワーク企画課長

国と地方公共団体は昭和40年代から空港整備に力を入れ、現在、日本には97(うち離島34)の空港がある。平成25年に「民活空港運営法(民間の能力を活用した国管理空港等の運営等に関する法律)」ができ、今や空港も文化財と同様、「つくる」から「活用する」時代にある。過去4年間の国内の旅客数は、7,900万人から9,500万人に1,600万人増加し、このうち700万人をLCCが運んだ。LCC利用客に「LCCがなかったらどうしたか」というアンケートをしたら、「家にいた」と答えた人が22%あり、LCCが潜在需要を顕在化したことがわかった。一方、local to localの路線はこの4年で51便から28便と急減。今後、国は地方空港の活用に一層力を入れていきたい。



総括

総合司会

水嶋智氏 国土交通省大臣官房総務課長

10名の方から、北前船の歴史遺産を地域の活性化にどう繋げていくかという話を伺った。その論点を3つにまとめた。1つめは、このフォーラムの開催を契機として、実際に地域間の連携が深まっているということ。東北や北陸、中国地方などから大勢の方々が、大阪にお集りいただいたことに大きな意義がある。2つめは大阪で寄港地の方々とつながり、



東京発ではなく、大阪発で日本全体のあり方を論じたこと。1730年に大阪・堂島で世界初の先物取引制度が作られ、日本の商流は大阪を中心に発達してきた。その大阪・関西が元気になることが、日本にとって非常に重要だという示唆が得られた。3つめは、北前船という文化遺産をいかに未来につなげていくかという問題提起。北前船は、遭難によって多くの人々が命を落としてもくじけなかった。北前船の日本遺産認定にあたっては、艱難辛苦を乗り越えて今日にいたる繁栄の礎をつくった先達のチャレンジスピリットに学び、その精神を大阪に再び戻す契機としたい。

7月18日(土) エクスカーション

ナビゲーターと巡る水の回廊クルーズ

「北前船寄港地フォーラム in 大阪」の翌日、フォーラム参加者のうち80人が、2艘の船に分かれて大阪市内を流れる「水の回廊」をクルーズした。大川・八軒家浜港(天満橋)を出発した一行は、東横堀川、道頓堀川、木津川、堂島川を約90分間にわたり周遊。大阪大学招聘教授の高島幸次氏が、これらの河川にまつわる歴史や文学、映画、落語などをジョークを交え解説した。「橋の数は江戸のほうが多かった(350橋)のに大阪が『八百八橋』と謳われたのは、大部分を民間人がつくり、江戸の八百八町を真似たから」「戎橋のグリコの看板はフィリピン人の陸上選手がモデル」など、一行は数々の興味深い話に聞き入った。



◀高島幸次氏





初参加のひこぼしくん(左)と
おりひめちゃん(右)

初企画「グルメストリート」も大好評 平成OSAKA天の川伝説2015

7月7日

大川・天満橋(八軒家浜)～北浜

主催：平成OSAKA天の川伝説

実行委員会

共催：関西・大阪21世紀協会

約5万個の「いのり星®(LEDを光源とする光の球)」を放流し、天空の「天の川」を地上に再現する「平成OSAKA天の川伝説2015」が七夕の夜に開催され、約5万2千人が幻想的な光景を楽しんだ。

第7回となる今年は、枚方市の産業振興キャラクター「ひこぼしくん」と交野市の「おりひめちゃん」も来場。八軒家浜船着場で母子50人の七夕コーラス隊による「たなばたさま」の合唱ではじまり、多くの来場者が次々といのり星®を放流すると、約1kmにわたって青白い光が川面を彩った。船着場では、増田いずみさん(オペラ歌手)、安藤史子さん(フルート)、平山朋子さん(ピアノ)による七夕コンサートも行われた。

今回は初企画として、大川沿いの遊歩道をはじめエリア内各所に「グルメストリート」を展開。フジオフードシステムによる屋台をはじめ、「天の川カクテル(BAR CADBOLL：大阪・天満橋)」や「天の川☆スタードーナツ(ルポンドシエル：大阪・北浜)」など約15店が、七夕限定メニューやオリジナルグッズを販売し好評だった。

かつて難波宮が営まれた頃、天満橋一帯は、国の平安と疫病退散を星に託して願う地だった。平安京に遷都されて以降も、天皇は当地で行われる「八十島(やそしま)祭」に使者を遣わし、大海原の生命力を身につけたと伝えられている。こうした国生みの祭祀や星祭りの伝説にちなむこのイベントは、大阪城フェスティバル(7月1日～)のキックオフイベントとして、大阪の夏の風物詩となっている。



大阪を代表するカクテルを目指し、
林杜一さん(BAR CADBOLL)が
考案した「天の川カクテル」。
会場でも大好評だった。



ルポンドシエルの七夕限定
「スターナゲット(上)」と
「スタードーナツ(下)」(ともに500円)

1800年の歴史をもつ華やかな神事 おたうえしんじ 住吉大社御田植神事

6月14日

住吉大社(大阪市住吉区)

住吉大社に数ある神事のなかで、ひときわ華やかで古式に則った格式を受け継ぐ御田植神事(重要無形文化財)が行われ、御田植えや舞など総勢420人が奉仕した。

この神事は、今から1800年前、神功皇后が住吉大社に神田を設け、長門国(現在の山口県)から植女を召して御田植奉仕をさせたのがはじまり。明治時代に入って中断したが、大阪新町廓の芸妓が植女となって神事廃絶の危機を救った。現在は関西・大阪21世紀協会(上方文化芸能運営委員会)などが、大阪の誇るべき伝統文化・神事芸能として支援している。

今年は3500人が参列するなか、御田に設えた中央舞台で御稔女(みとしめ)による神田代舞(みとしろまい)や、田の周囲で無形文化財の住吉踊りなどが奉納された。こうした歌や踊りを奉納するのは、穀物に宿る力を増すためだといわれている。



御田植風景

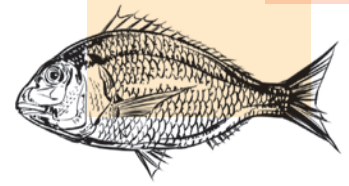


神田代舞を奉納する
御稔女の伊藤綾梨さん。
この舞は、1952年に御田植
神事が無形文化財指定を
受けたのを機に創作された。

21cafe — 話題提供と情報交換の交流サロン

関西釣り文化論

7月22日
中之島プラザ(アゴラシオン)
主催：関西・大阪21世紀協会



佐々木洋三 関西・大阪21世紀協会 専務理事

新たな文化創造のアイデアや人的ネットワークのきっかけをつくる「21cafe」。2007年にスタートして8年目を迎えた今年7月、当協会の佐々木洋三専務理事が「関西釣り文化論」を展開した。鯛釣りを中心に、その歴史や釣法、釣具の市場動向、近年の「里海計画」など、文献や動画映像、自身の釣行をもとに、興味深い話題を提供した。

佐々木専務理事は、日本の釣り文化は関西が先駆的な役割を果たしてきたとし、数々の史実を示した。そのひとつが、古代より天皇に魚介類を献上してきたのは鳥羽、越前、そして大阪湾の「御食国(みけつくに)」であったこと。朝廷が関西にあったためであるが、奈良の平城京跡から「多比」や「鯛」という文字と併せて、「鳥羽」などの地名が記された送り状と見られる木簡が出土している。また、古代より大阪湾南岸一帯の海は「ちぬ(茅渚)の海」と呼ばれたことを紹介。茅渚は和泉国あたりの古称で「茅(かや)の生えた野」の意味で、古事記にも記載されている。クロダイを「チヌ」と呼ぶのは「ちぬの海」の名産だったからだ、江戸時代の国学者・本居宣長は『古事記伝』に書いている。

さらに、「なにわ」は、一説には魚がたくさんいる庭と書く「魚庭(なにわ)」が語源であるとし、事実、大阪湾では食用の魚介類だけで約230種が確認されていると指摘した。大阪湾は古くは日本の漁業の中心地で、優れた漁労技術が対馬や房総半島に伝えられた。房総半島にも白浜や勝浦という地名があるのは、雑賀崎(和歌山)の漁師たちが東に釣り進み、紀伊半島に似た房総半島を見つけたからだという。佐々木専務理事は、こうした関西の釣りに関する歴史的ポテンシャルを、しっかり記憶にと



どめておく必要があると強調した。

日本人にとって真鯛は「百魚の王」ともいべき魚の象徴で、自身も「大鯛」を求めて青森(津軽)や対馬、屋久島など各地へ釣行に出ている。これらの地域の真鯛は体高があり、プロポーションも良い。そうした大物が期待できるのは、豊かな森林がもたらす栄養分で海が肥えているからである。

さらに、「鯛ラバ」と呼ばれる真鯛を疑似餌で釣る「ラバージギング」について、その仕掛けや釣り方を、自身が案内人を務める「新しいおとなのオフタイム(当協会のホームページで動画配信中)」で説明。韓国で起きている鯛ラバブームを紹介し、新たなクールジャパンの可能性を示した。また、竿やリールなどの釣具用品の市場にも触れ、2013年度の市場第1位が釣り竿(344億円)で、第2位が疑似餌(312億円)であることに言及。自身が追求する海のルアー釣りが、近年大きな市場に育ってきたことを感慨を込めて説明した。

最後に、大阪・関西の食文化と釣りは観光集客のテーマになるとし、海の生産性を高め、生物多様性を維持する「里海計画」の推進について紹介。とりわけ瀬戸内海では、漁業後継者の育成や島の活性化、ヨットハーバーの拡充など、レクリエーションを含めた総合的な海の利用が里海を生かし、漁業観光への道を拓くと述べた。



徳島県鳴門市での鯛ラバ釣り
「新しいおとなのオフタイム#2徳島県鳴門市後編」
協会ホームページで動画配信中



佐々木洋三(ささきひろみ)

1981年サントリー株式会社入社、マーケティング部門や経営企画部、社長室などを経て、現在、同社秘書室より当協会に外向。
「17食博覧会・大阪」総合監修、関西元気文化圏推進協議会幹事、平成OSAKA天の川伝説実行委員会副委員長などの他、株式会社シマノの釣りインストラクターを務め、マダイ・ラバージギング(疑似餌釣法)の第一人者でもある。



平成28年度 日本万国博覧会 記念基金助成事業

申請
受付開始

申請書の
提出期間

平成27年9月1日(火)～30日(水)

※郵送のみの受付と
させていただきます
(当日消印有効)。

助成対象事業

平成28年4月1日から平成29年3月31日までの事業で、万博の成功を記念するにふさわしく、かつ公益的な活動。

(1) 国際相互理解の促進に資する活動

- ① 国際文化交流、国際親善に貢献する活動 ※平成28年度重点テーマ
- ② 学術、教育、社会福祉、医療および保健衛生に関する国際的な活動
- ③ 自然の保護その他人間環境の保全に関する国際的な活動

(2) 文化的活動

- ① 日本の伝統文化の伝承および振興活動 ※平成28年度重点テーマ
- ② 芸術および地域文化に関する活動

助成額

平成28年度の助成予定総額 1億円

(1) 国際相互理解の促進に資する活動

助成金は100万円から最高1000万の範囲内で、助成対象事業費の合計に対し1/2以内の額とします。よって事業者は、助成対象事業費の1/2以上を、自己資金またはその他の資金で賄う必要があります。さらに、事業形態により次のとおり助成金の限度額を定めています。

(注意) 下記の事業形態の中から、いずれか一形態の事業しか選択することができません。交付される金額は、審査の結果によって限度額を下回ることがあります。

事業形態	助成限度額	事業形態	助成限度額
公演・展示	400万円	招へい、派遣	300万円
国際会議	300万円	日本語教育用機材購入	500万円
図書購入	200万円	日本語教育用機材以外の機材購入	800万円
図書刊行、フィルム、テレビ番組、ホームページの制作など	300万円	施設の建設または整備	1000万円
		国際博覧会への出展	1000万円

(2) 文化的活動

助成額は下記のいずれかを選択できます。

- ・助成対象事業費の合計に対して1/2以内の額……………100万～400万円
- ・助成対象事業費に応じた定額交付……………50万～100万円

募集要項および申請書は、当協会ホームページからダウンロードできます。

<http://www.osaka21.or.jp/jecfund/>

お問合せ

公益財団法人 関西・大阪21世紀協会
万博記念基金事業部

〒530-6691

大阪市北区中之島6-2-27 中之島センタービル29階

TEL 06-7507-2003

E-mail jec-fund@osaka21.or.jp

平成 27 年度助成事業のご紹介

関西・大阪21世紀協会は、今年3月9日に平成27年度日本万国博覧会記念基金による助成金交付先(60事業・約1億円)を決定しました。その中から、今年4月以降に実施された助成事業のいくつかをご紹介します。当協会は現在、順次実施される助成事業について、その実地調査を進めています。

関西フィルハーモニー管弦楽団ヨーロッパ演奏旅行

事業者	特定非営利活動法人 関西フィルハーモニー管弦楽団
交付決定額	280万円
実施期間	2015年5月27日～6月6日
実施場所	スイス：ピエールジアナダ財団 美術館内ホール ドイツ：デュッセルドルフ市運営ホール “トーンハレ”、 ヴェルツブルグ・レジデンツ イタリア：ドニゼッティ劇場、 ブレシア・グランデ劇場

関西フィルハーモニー管弦楽団の初の海外遠征として、ヨーロッパ3か国(5か所)で公演を行いました。

今回は、すべての公演地のホールにおいて日本のプロのオーケストラが出演するのは初めてで、日本の高い音楽レベルをヨーロッパの聴衆に知っていただく絶好の機会となりました。

スイス、イタリア、ドイツの歴史あるホールや会場で演奏できたことは、楽員にとってかけがえのない経験となりました。音楽監督のオーギュスタン・デュメイ氏は、現地でも厳しいリハーサルを何度も実施。これにより、楽員はますます音楽性を深め、その結果、全身全霊を込めた今までにない音で演奏でき、大きな自信を得ました。また、同楽団の演奏はすべての公演で賞賛をいただき、聴衆と主催者に日本のオーケストラに対する新たな認識を持っていただくことができました。

万博記念基金の助成が決定した後、同楽団は質の高い楽器をレンタルするためレンタル業者を精査し、信頼できる



デュッセルドルフ市運営ホール“トーンハレ”での公演(5月30日)



総立ちの聴衆から賞賛の拍手が送られる(スイス・5月29日)

業者に変更し楽器の運搬をお願いすることができました。

オーケストラにとって楽器に関わることは非常に重要であり、楽器の借上及び運搬費に助成を得られたことが、この度の公演実現の大きな要因となりました。

各公演の状況	5月29日	スイス(ピエールジアナダ財団美術館内ホール) 入場者数850人。	最後のプログラムが終わると、一斉に立ち上がった聴衆から温かい拍手を得ました。
	5月30日	ドイツ(デュッセルドルフ市運営ホール“トーンハレ”) 入場者数1750人。	今回のツアー中、もっとも大きなホールでしたが、ほぼ満席を記録。細川俊夫「月夜の蓮」が美しく響き渡り、ここでも盛大な拍手を得ました。
	6月1日	イタリア(ドニゼッティ劇場) 入場者数1000人	歴史あるオペラハウスで演奏できたことに、楽員も大きな感動を覚えました。
	6月2日	イタリア(ブレシア・グランデ劇場) 入場者数700人	厳しいリハーサルを行い、全身全霊で演奏。今回のヨーロッパ公演の目的のひとつである「演奏力向上」の成果が得られました。
	6月4日	ドイツ(ヴェルツブルグ・レジデンツ) 入場者数380人	世界遺産でもある華やかな王宮でのコンサート。ドイツのバイエルン放送によるラジオ収録が行われました。

2015 スtockホルム民族学博物館茶室「瑞暉亭」^{ずい きてい} 整備事業

事業者	The National Museums of World Culture / Museum of Ethnography
交付決定額	100万円
実施期間	2015年5月11日～6月8日
実施場所	スウェーデン王国（国立民族学博物館）

茶室「瑞暉亭」は、1935年10月に日本とスウェーデン王国両国の文化交流の場として、ストックホルムにある国立民族学博物館の敷地に造られました。秩父宮殿下によって命名され、「瑞」は「めでたい」や「瑞典（スウェーデン王国）」を、「暉」は「照り輝く」や「日本国」を意味しています。

こうして瑞暉亭は日瑞両国の友好親善に活用されてきましたが、1969年に焼失。1980年代になって再び茶室を持つという活動が始まり、1990年に同博物館の庭園内に再建されました。本格的な数寄屋造りの茶室で、同年5月28日にスウェーデン王国・クリスティーナ王女のご臨席のもと



現地の人に補修技術を指導



瑞暉亭

落成式が行われました。

以後、10余年にわたり瑞暉亭は本格的な補修工事がなされなかったため、近年、雨漏りや聚楽壁（じゅらくかべ：京都西陣の聚楽第跡地付近の土を用いた仕上げ用の土壁）の落脱が顕著となってきました。そこで、瑞暉亭を設計した建築家の中村昌生氏を中心に、京都（安井奎工務店）から数寄屋大工を招へいして補修工事を行うとともに、現地の職人に補修技術などが伝授されました。

この事業の担当者は、「瑞暉亭は、博物館の来場者にとって大変価値のある魅力的なもの。私たちは瑞暉亭を通して建築と日本庭園、茶室と武士道、禅、生け花、書道など、さまざまな日本文化を紹介するとともに、日本文化の普及のためにこれからも大切に使いしていきたい。万博記念基金の助成なしでは、今回の整備事業を達成することはできず、心よりお礼を申し上げます」と述べました。

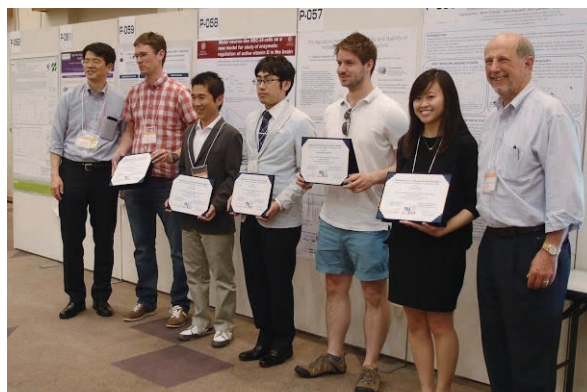
第19回シクロムP450国際会議

事業者	第19回シクロムP450国際会議 組織委員会
交付決定額	180万円
実施期間	2015年6月12日～15日
実施場所	オリンピック記念青少年総合センター （東京都渋谷区）

シクロムP450とは、細菌から植物・動物まで生物界に広く分布し、生命科学のあらゆる分野に登場する酵素群の総称です。人体では主に肝臓や小腸で酒や薬を分解する役目を担っており、この酵素が弱いと酒に弱くなったり、薬が効きすぎて副作用が出るといわれています。シクロムP450は、1962年に大阪大学蛋白質研究所で発見され、現在、外来異物の分解や生体内物質の合成など、医学、薬学、農学、環境科学をはじめ、さまざまな分野において重要な研究課題となっています。とりわけ日本の研究レベルは高く、つねに世界をリードしてきました。その応用研究では、希少有機物質の合成生物学的な製造など独創的な研究が展開され、その成

果のひとつに、サントリーグローバルイノベーションセンターの「青いバラ」があります。

一方、環境分野においては、外来異物の分解作用として、環境中にある有害物質を分解して水に溶けやすくするという「環境浄化」を研究しているところもあります。フランスでは、合成が非常に難しい物質をシクロムP450を使って合成し、



優秀な発表を行った若手研究者を表彰

新薬開発につなげて人に使用している実例も報告されています。

シトクロムP450の国際会議は1976年から始まり、ヨーロッパ、アメリカ、日本で2年毎に開催されています。日本での開催は1999年(仙台市)と2009年(名護市)につづき3回目。ネパールでの地震や韓国のMERSの影響も懸念されるなか、当初予定の300名を超える306名の参加者があり、うち6割が海外からの参加であったことから、日本開催に対する関心の高さが伺えました。基調講演では、シトクロムP450のグループに含まれる一部の蛋白質を結晶化することに成功し、形のある物質として扱えるようになったことが発表され、多くの関心を集めました。また、各セッションでは熱心な討議が行われました。

今回の国際会議組織委員会の山崎浩史委員長は、当協会の実地調査を受け、「近年、国際会議の開催に企業支援が得にくい状況にあるなか、万博記念基金の支援は非常に大きな支えになっている」と述べました。



講演の様子



討議の様子

劇団青春座 創立70周年記念「久女の恋」演劇公演

事業者	劇団青春座
交付決定額	130万円
実施期間	2015年5月23日～24日
実施場所	北九州芸術劇場

劇団青春座は、1945年10月に現在の北九州市で創立された、現存するものとしては日本でもっとも歴史あるアマチュア劇団。敗戦後の瓦礫の山と化した北九州の街で16名の若者が興し、「劇団員数名」という危機も乗り越えながら「青春座が北九州の文化をつくる」という信念で、年2～3回の公演を一度も休むことなく昨年まで累計223回行ってきました。これまでに劇団員になった市民は延べ1900名を超えます。

助成対象となった今回の公演は、同劇団が取り組む「郷土シリーズ」のひとつで、小倉ゆかりの俳人・杉田久女を通して、女性が生きにくかった昭和初期に芸術(俳句)に恋した女性の生き方を描いたもの。5月23日と24日の2回上演され、



劇団青春座「久女の恋」舞台挨拶風景

計画(700人)を大きく上回る932人の市民が観劇しました。

現在、35名の劇団員は、学生以外は皆働いており、練習は公演の3か月前から週3日・19～21時に行っています。チケット販売やポスター掲示なども劇団員の職場や近隣で手



劇団青春座「久女の恋」上演風景

配りしており、衣装や舞台装置も手づくりが中心です。劇団青春座の井生定巳代表は、「劇団の活動を持続可能にするためにも、万博記念基金の助成は大変ありがたいこと。赤字覚悟の計画だったが、助成によって劇団経営にダメージを受けることなく、次回公演へのステップとすることができました。アマチュア劇団として、これからも地域の文化活動を地道に底上げし、市民に郷土の誇りを喚起していきたい」と、助成への感謝と今後の意気込みを述べています。

来場者からは、「久女の俳句に賭ける情熱に感動した」「郷土ゆかりの人物を取り上げるのは地元劇団の責務だ」「30年近く観てきたが、舞台が重厚になった」「70年も休みなく公演を続けてきたことに敬意を払う」など賞賛の声が寄せられました。また、5月25日の毎日新聞の報道では、上演中の写真とともに、「セリフに感情がこもっていて、涙が出るくらい感動した」という70代女性の声も取り上げられました。

厳しい状況にあってもこそ 頑張っている人を応援したい

創業者の献身的な働きぶり

当社は来年(2016年)3月をもって、創業70周年を迎えます。創業者の梶本秀尾は旧鉄道省の電気技師で、大阪鉄道局長から賞詞を受けるほど、戦災復興に尽力した人でした。終戦翌年の1946年に独立。大阪で電気工事会社を興したのですが、当初は仕事がなく、泉州などから仕入れた食糧を売って生計を立てていました。一方、空襲で壊滅状態にあった大阪市電を目の当たりにし、鉄道省時代に培った技術で、その復旧に貢献したいと考えたのです。そこで大阪市交通局を訪ねたところ、驚いたことにその局長はかつての鉄道省の大阪鉄道局長でした。局長は梶本の献身的な働きぶりをよく覚えてくれていて、梶本を電気部長に紹介してくれました。復興への社会貢献活動が、新たな仕事につながったのです。

市電の復旧に携わるようになった当社は、あらためて技術力

の高さが認められ、その後、市営地下鉄や在阪私鉄の電気工事も行うようになりました。さらに、地下鉄のサードレール(車両への給電用レール)の施工実績が認められ、東京オリンピックの1964年に開業した日本初の東京モノレール(浜松町ー羽田空港間)から直近の沖縄まで全国のモノレール剛体電車線工事に携わってきました。また、金沢シーサイドラインやポートライナー(大阪南港、神戸)など、全国の都市型新交通システムも受注してきました。同時に東海道新幹線から今年3月に開業した北陸新幹線まで、全国の新幹線工事も施工して参りました。しかしこうした鉄道関係の仕事は全体の仕事の2割程度で、あとは都市化に伴う大型ビルなどの電設工事を請け負っています。

このように、当社の発展は、頑張って働いて社会に尽くしたいという、創業者の強い思いがきっかけでした。私も創業者と同じように、事業で得た利益で社会貢献できることをうれしく思っています。近年は、太陽光発電システムをはじめ、2013年には大分県別府市の企業など4社と共同出資して西日本地熱発電株式会社を設立し、昨年、同市で「五湯苑(ごとうえん)地熱発電所」を建設、稼働させました。まだ緒に就いたばかりですが、これを機に自然エネルギー発電の需要を掘り起こし、皆さまの暮らしのお役に立つことができると考えています。

事業利益で社会貢献を果たす

社会貢献活動を行うにあたっては、「ご縁」も大事にしています。WHO(世界保健機関)への寄付支援は、社団法人日本WHO協会への關淳一理事長(元大阪市長)が私と大阪市立大学医学部の同級生(岩橋氏は文学部へ転部)で、彼からWHOへの支援を頼まれたのがきっかけで法人正会員になりました。また、アジア諸国の孤児や母子・難民などの福祉や教育を支援する公益財団法人アジア福祉教育財団への支援は、同財団の奥野誠亮名誉会長(元文部大臣)が私と同郷(奈良県御所市)で、若い頃からのご縁がきっかけです。そして、当社のお客様でもあるロート製薬様が提唱された「みちのく未来基金」は、東日本大震災の震災遺児が大学を



卒業するまで、25年間にわたって教育支援をするという長期的な活動に共感して微力ながら寄付を続けております。その他、テレビなどで報じられる紛争の画面を見ているとあまりにもひどい悲惨さにせめて、少しでも思い「国境なき医師団」やユニセフなどにも寄付させていただいております。文化関連では、「アーツサポート関西」などに支援活動を行っています。

こうした寄付支援は当社が事業利益を上げているからこそできるものです。当社は創業以来ずっと黒字経営を続けており、昭和45年から大阪国税局より優良法人の表彰をずっと受け続けています。こうした納税義務を果たすことも、社会貢献のひとつだと自負しています。着実に利益を上げ、支援活動を続けることは決して簡単ではありませんが、私は「貧者の一灯」の精神で続けていきたいと思っています。

自助努力をしてこそその繁栄

鉄道の保守工事はほとんどが夜業ですので、工事担当者は昼夜逆転の生活を強いられます。冬は寒風吹きすさぶ高架で作業したり、夏はまったく日陰のない軌道上で暑さと闘っています。危険な場所での作業ですから、細心の注意も欠かせません。緊急連絡が入れば、深夜でも現場に急行します。そうして翌朝の始発までに工事を済ませなければなりません。安定した運行の維持に使命感を持っています。

また、ビルの新築工事では、電設工事が完了して配電盤のスイッチを入れると、建物に生命が吹き込まれたように全館の照明が一斉に点灯します。現場で苦労を重ねてきた者が、最高の達成感を得る瞬間です。私は、若い人たちにはこうした達成感を味わってほしいと思っていますし、誠実に努力し、良い成果を出すことでお得意先から「次の現場も君にやってほしい」と言ってもらいたいのです。そのためには、技術力に加え、コミュニケーション能力や人柄を磨く努力が必要です。これは文化活動に携わる人にもあてはまるでしょう。一生懸命努力している人を見ると、応援したい気持ちになります。大阪市が文楽への補助金をカットしたとき、若い芸員の方々、観客を増やそうと駅前



北陸新幹線(2015年3月開業)架線とそれを支える柱をすべて請け負う



五湯苑地熱発電所(大分県別府市)

文楽の面白さをアピールされたことがありました。芸術や文化活動を続けていくのは大変なご苦労があると思いますが、補助金頼みだけではいけません。大きな企業や金融機関は社会的影響が大きいので公的な支援もありますが、われわれ中堅・中小企業は誰も助けてくれません。経営も文化も自助努力しかないというのが、私の考えです。

山登りも日本の文化

還暦を迎えてから2年間、能楽師の山本章弘氏に師事して謡曲を学びました。クラシックも大好きです。また、60歳を過ぎた頃に黒部アルペンルートに旅したことがありました。そこで立山連峰の雄大な景色を眼前にした私は、大切なものを忘れていたことに気がつきました。じつは私は学生時代に山岳部に所属していました。大好きだった山に再び戻ろうと決意したのです。それから20年間、毎年、剣岳や立山連峰などの北アルプスを中心に登っています。トレーニングのため毎週金剛山(標高1125m)に出かけ、今年で24年目、通算1369回(2015年7月26日現在)になりました。六甲全山縦走(全長56km)は61歳からはじめ、77歳まで16年間連続完走しました。上り下りの連続で、13時間から70代後半になってからは17時間もかかる精神的にも辛く厳しい縦走です。

日本には山岳思想があります。山に登ると、自然の中で精神が浄化されるような気持ちになります。季節の移ろいや山野草などを眺めつつ、自分を見つめる機会にもなっています。若い頃に読んだ徳富蘆花の「自然と人生」や夏目漱石の「草枕」の一節を振り返って、人生のあり方を考えることもあります。ですから、私にとって山は歩きながら考える哲学の場なのです。山のなかで他人と出会うと、どちらからともなく挨拶をしたり、道を譲ったりしますね。古来、日本人が大切にしてきた「しぐさ」には、他人を思いやる所作や奥ゆかしさが込められています。現代は、こうしたしぐさが忘れられているような気がしてなりません。若い人もこうした日本文化や道徳観をもっと大切にしてほしいと思います。

岩橋貞雄氏

1935年奈良県御所市出身。1961年大阪市立大学文学部卒業後、明星学園(大阪市)で教鞭をとる。1965年同学園を退職、八千代電設工業株式会社入社。1985年同社代表取締役就任、現在にいたる。一般社団法人鉄道電気安全協会理事、東優会理事、一般社団法人日本建築協会理事、公益社団法人東納税協会副会長。

八千代電設工業株式会社

大阪本社:大阪市中央区森ノ宮中央1丁目1番38号
1946年創業。鉄道・地下鉄およびオフィスビル・医療施設などの屋内外電気設備施工を中心に、光ケーブル通信などの情報通信網施工、太陽光発電、地熱発電など、幅広い電気設備施工を展開。資本金1億2000万円、売上高123億円、従業員数183名(2015年5月期)。



北アルプス「剣岳(標高2999m)」にて(2014年8月)

写真提供: 八千代電設工業株式会社



アーツサポート関西 寺田千代乃 上方落語若手噺家支援基金

上方落語若手噺家グランプリ

きちのじょう
初開催は桂吉の丞さんが優勝

上方落語の伝統継承と若手噺家の育成を目的として、アートコーポレーション株式会社の寺田千代乃社長による特定型個別基金(500万円)をもとに開催された「上方落語若手噺家グランプリ」。今年6月23日、天満天神繁昌亭で予選を勝ち抜いた9名による決勝戦が行われ、桂吉の丞さん(32)が優勝した。在阪のテレビ・ラジオ局7社のプロデューサーらが審査した。

吉の丞さんは1982年堺市出身。2002年に故桂吉朝さんに入門し、今年13年目。今年3月に亡くなった桂米朝さんの孫弟子で、米朝、吉朝のもとで修業した最後の弟子となる。決勝の演目は古典「墓(がま)の油」。流暢な口上で客を引きつけた墓の油売りが、休憩に飲んだ酒で酔っぱらい2度目の口上をしくじる話で、その滑稽さを見事に演じ、観客を大いに沸かせた。

寺田氏から賞金20万円と記念盾を受けた吉の丞さんは、その後の記者会見で、「こうした機会を与えていただいたことに、出演者全員が喜んでます。落語はお客様に助けられる芸能。大阪には、若手噺家がこんなに頑張っていることを皆さんに知っていただきたい」と感謝した。また、同席した桂文枝さん(上方落語協会会長)は、「お客様が入りきらないほど大盛況だった。これを機に若手がどんどんテレビに出て、落語ファンを増やしてほしい」と励ました。



寺田千代乃氏(右)から賞金を受ける吉の丞さん



口演中の桂吉の丞さん

公募助成金の交付開始

独創的な作品にメディアも注目

昨年審査で決定したASK(アーツサポート関西)の助成金交付が、今年4月から始まっている。7月31日時点で、すでに8つの団体・個人に交付され、なかにはメディアに大きく注目されているものもある。

そのひとつ「ディズニー美術」(40万円)は、美術と著作権の問題をテーマにした現代アート展で、同時に行われたシンポジウムには東京からも専門家が駆けつけ、新聞でも大きく取り上げられた。また、演劇集団

「下鴨車窓」(50万円)は、6月に香港とマカオで海外公演を実施。そこで上演された新作「漂着 island」が大阪と京都でも上演され、新聞などでも取り上げられ話題を呼んだ。一方、「Dance Fanfare Kyoto」(30万円)は、新たな表現をめざす若者世代の取り組み、ダンサーと他分野のアーティストとのコラボレーションによって独創的な舞台表現が繰り広げられた。



ディズニー美術



演劇集団「下鴨車窓」



Dance Fanfare Kyoto

助成に関する受付・お問合せ

アートサポート関西 事務局
公益財団法人 関西・大阪21世紀協会内

〒530-6691 大阪市北区中之島6-2-27 中之島センタービル29階

TEL 06-7507-2004 FAX 06-7507-5945

Email ask@osaka21.or.jp



吉田玉女 改め 二代目吉田玉男さんに聞く

文楽界の至宝・初代吉田玉男さん(人形遣い・人間国宝)が亡くなって9年目の今年4月、一番弟子の玉女さん(61)が、二代目吉田玉男を襲名した。先代の足遣い、左遣いを長年勤め、文字通り間近で師匠の芸を学んだ玉女さんに、襲名への思いや修業時代の思い出などを伺った。

👁️ 襲名を決心されたきっかけは？

師匠の三回忌が済んだ頃、先輩方から襲名の話がありました。しかし自分には恐れ多いことで、50代ではまだ早いと思っていたんです。そして平成25年に還暦を迎えた私は、その年の東京公演で「伊賀越道中双六」の大役・唐木政右衛門を遣いました。これを長年文楽の舞台を観にいらしている長唄の稀音家義丸先生がご覧になり、「もう二代目玉男を襲名してもいいのではないか」と言ってくださいました。こうしたことがあって、ご遺族のお許しを得て師匠の名前を継ぐ覚悟を決めました。

👁️ 襲名披露狂言で感じられたことは？

大阪(4月・国立文楽劇場)、東京(5月・国立劇場)ともに、連日大入りのお客様にご来場いただき、とてもうれしく思っています。先代のことは皆さんよくご記憶ですから、私の襲名に高い関心を持っていただき、テレビや新聞などで紹介されたことも集客につながったと思います。襲名披露口上は、歌舞伎と違って私は言葉を発しないのですが、お客様の視線が押し寄せてくるようでとても緊張しました。また、同期入門の桐竹勘十郎さんが、中学生で入門した当時の私との思い出を口上され、私は胸が熱くなりました。2か月にわたる襲名披露狂言は、あっという間に過ぎたという印象です。

👁️ 「一谷嫩軍記」を襲名披露の演目にされたのはどうして？

入門して13年目の昭和55年、師匠の足遣いをしていた私は、若手向上会で「一谷嫩軍記」の主役・熊谷次郎直実の主遣いを初めて勤めました。このとき師匠には左遣いをさせていただ



襲名披露狂言で「一谷嫩軍記」の熊谷次郎直実を遣う(4月・国立文楽劇場)
(写真提供：国立文楽劇場)



ました。熊谷役は師匠も好きでしたし、勉強会とはいえ私が初めて主役を遣ったのが熊谷です。そのため師匠を偲び、初心に戻って精進する思いを込めて、襲名披露狂言の演目を選びました。

👁️ 師匠から教わったことで印象深いことは？

文楽の人形遣いは、「足10年、左15年」といわれるほど長く修業をします。師匠は立役(男役)であり動かない役が多く、足遣いで修業中の私は、じっと動かず我慢しているのが不満でした。一方、勘十郎(当時吉田蓑太郎)さんは、よく動く人形の足を遣っていて、私は羨ましく思っていました。そんな私に師匠は、「じっとしているときに浄瑠璃を聞いたり、主遣いを見たり、芝居全体を見ることが大事や。そうすれば動く足もできるようになる」と諭してくださいました。まだ10代の私は、我慢することの意味がわからなかったんですね。ふくれっ面になり、それでまた叱られることもありました。

👁️ 文楽協会への補助金削減問題や今後の活動について

大阪市から(平成25年度から入場者数によっては)補助金を出さないといわれて、とても驚きました。反面、皮肉にもこの問題が引き金となって、文楽が再び注目されました。今年は、将来の観客となる大学生向けの「ワンコイン文楽」を関西・大阪21世紀協会の「アーツサポート関西」にご支援いただいたり、若手が中心となった「うめだ文楽」に民間放送局のご支援をいただき、とても感謝しています。また、来年は国立劇場(東京)が開場50周年を迎えます。さらには東京オリンピックなどの機会を得て、私たちは文楽のアピールに一層努めていきたいと思っています。

(聞き手ライター 三上祥弘)

二代目 吉田玉男

昭和28年大阪府八尾市生まれ。昭和43年、初代吉田玉男に入門、吉田玉女と名乗る。昭和44年、大阪・朝日座で初舞台。師匠が得意とした線の太い立役の多くを受け継ぐ。第32回(平成24年度)国立劇場文楽賞文楽大賞、平成25年度(第70回)日本芸術院賞ほか受賞多数。共著「文楽へようこそ(平成26年)」。



関西・大阪文化力会議2015

9月11日 開催

警醒の知性が語る 日本のビジョン! — 拓けるか 未来の希望 —

シンポジウムの合間には、平成26年度から当協会に承継した「日本万国博覧会記念基金事業」の助成先が、歌やパフォーマンスの成果を披露します。会議終了後には、パネリストやアーティストの皆様との交流会(有料)も行います。ご一緒に関西の文化芸術を語り合いませんか。

日時 2015年9月11日(金)
・シンポジウム(参加無料) 14時~18時
・交流会(参加費2,000円) 18時~19時30分

会場 堂島リバーフォーラム 1階ホール
大阪市福島区福島1-1-17
主催：(公財)関西・大阪21世紀協会
後援予定：大阪府、大阪市、(公社)関西経済連合会
大阪商工会議所、(一社)関西経済同友会



シンポジウム

●基調講演

近藤誠一
近藤文化・外交研究所代表
前文化庁長官



●パネルディスカッション

「希望の世界へ — 国際相互理解と文化交流」

近藤誠一
近藤文化・外交研究所代表、前文化庁長官
角 和夫
阪急電鉄株式会社 会長
根本かおる
国際連合広報センター 所長
他に関西の文化人を予定(調整中)

コーディネーター
(オリエンテーション)
国分良成 防衛大学校長



和泉流狂言師 小笠原匡さんが中之島宣言を奏上します。



「日本万国博覧会記念基金事業」の助成先によるパフォーマンスを披露
(一社)大阪コレgium・ムジウム、(一社)KIO(カナダの劇団コープス)、和歌山市民オペラ協会

※出演者やテーマ等は予告なく変更する場合があります。

詳細内容・お申込みは、**関西・大阪21世紀協会のホームページ**でご案内しています。
<http://www.osaka21.or.jp/event/bunkaryoku2015>

(公財)関西・大阪21世紀協会 文化事業部
お問合せ ☎06-7507-2006 FAX06-7507-5945
E-mail bunkaryoku@osaka21.or.jp

関西・大阪21世紀協会賛助会員
入会のお願い

関西・大阪の活性化のため、皆様のご支援をお願いします。

会費(何口からでも結構です)

- 法人会員1口につき年会費10万円
- 個人会員1口につき年会費1万円

お問合せ (公財)関西・大阪21世紀協会 総務部

特典

- 1.協会が発行する刊行物の配布
- 2.協会が主催する各種セミナーなどへの案内
- 3.賛助会員の参考となる情報・資料の提供など